

第19回福山教育フォーラム分科会（概要）
～アセスメントに基づく指導支援実践研究校～

1 自立活動の現状

- 「自立活動は児童生徒に合った活動になっているか」に対し、「はい」90%、「いいえ」10%であった。「はい」子どもの実態に応じて活動を組んでいる。実態に合わせて内容を考えている。「いいえ」全員にあった内容を計画しているが、実践が難しいことがある。全ての生徒に当てはまる活動が難しい。
- 自立活動の目標を確認し、いい自立活動のイメージをもつ。

- ・ 子どもたちが楽しみに取り組み、豊かな心、健やかな体が育成される活動。
- ・ 個々の課題に応じて活動を決めて、生徒が楽しみながら課題を達成することが活動。
- ・ 児童一人一人が自分の課題に対して主体的に取り組むことができたという達成感と、次はこうしたいという、向上心がもてる活動。

2 パイロット校の取組

引野小学校	水呑小学校
<p>これまでの授業を振り返り、それぞれの課題を改善するために、個別の指導計画を作成し自立活動を行ったり、みんなでできることを中心とした活動を行ったりしていた。</p> <p>研究を通して、LITALICOのアセスメントに基づいて、課題があると思われる項目をそれぞれの課題として設定し、活動が同じものを行う授業を行った。授業づくりについての意識が大きく変わってきた。</p>	<p>これまでは子どもの普段の様子、交流学級担任や保護者からの聞き取り、発達検査等から見えた困り感や得意なことに基づいて、自立活動を計画していた。</p> <p>アセスメントをもとに、活動形態を柔軟に変化させ、活動内容の幅を広げていく。また、学年ごとの時間や一人一人の個別の時間を作り、より個に合わせた学習を計画する。</p>

3 協議「実態把握の視点について」

- 自立活動の意味や項目をもとに、具体的な子どもの姿を校内で協議しながら考える。

【協議シート（抜粋）】

1（4） 障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること。	<input type="checkbox"/> 自分の特性が分かる。 <input type="checkbox"/> 困ったときの対策を知っている。 <input type="checkbox"/> 自分の状態を感じ、解決策として別の場所に移動したり、困っていることを説明できたりする。 <input type="checkbox"/> 自分の特性を理解し、環境の改善について援助要求ができる。 <input type="checkbox"/> 感情をコントロールするためのフレーズを持っている。	<input type="checkbox"/> 得意なこと、不得意なことが分かる。 <input type="checkbox"/> 自分の特性や思いを説明できる。
6（2） 言語の受容と表出に関すること。	<input type="checkbox"/> 会話が成立し、意思疎通ができる。 <input type="checkbox"/> あいさつに応じることができる。 <input type="checkbox"/> 言葉で要求を伝えることができる。 <input type="checkbox"/> 相手に応じて伝えることができる。 <input type="checkbox"/> 分からないときは聞き返す。	<input type="checkbox"/> 名前を呼ばれると、振り向いたり気づいたりできる。 <input type="checkbox"/> 話しかけられたときに返事ができる。 <input type="checkbox"/> 相手の話していることを最後まで聞くことができる。 <input type="checkbox"/> 相づちを打ちながら聞く事ができる。 <input type="checkbox"/> 相手の意図をくみとり、返事ができる。

4 2学期の取組

- ・ 研究校は、アセスメントの更新を継続していくとともに、児童生徒を分析した結果、どのような自立活動を取り入れることが効果的か授業実践を通して検証をしていく。また、通常学級に在籍する児童（若干数）を対象にアセスメントと支援計画を作成し、実践及び検証を行う。
- ・ 研究校以外は、アセスメントの視点を提供し、自立活動の充実に向けた授業づくりの支援を行う。